

たばしねさんろく 東稲山麓地域の 災害リスク分散型土地利用システム

いのち 暮らし
～災害から生命と生活を守り未来へつなぐ～



日本農業遺産
令和5年1月認定

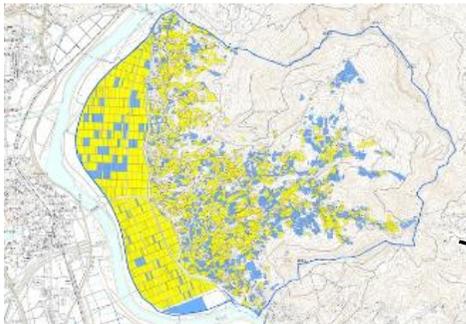
岩手県東稲山麓地域

岩手県東稲山麓地域は、地形的な要因により頻発する自然災害のリスクに対応するため、山麓地や低平地では個々の農家が両方に農地を分散所有をしています。さらにため池や山地の森林は地域の共同組織が管理するなど、地域一体となった土地利用を行う共同・共助の取組や、これを支える地域コミュニティが継承されています。

災害に適応した農地利用

農地の分散所有

低平地に農地を所有している農家の約9割が山麓地にも所有しています。



※ 黄色：低平地と山麓地の両方に農地を分散所有している農家の農地



生産性の高い水田農業

低平地では、現在、大区画ほ場が整備され、米を中心に麦・豆等が栽培されています。

災害リスク分散型土地利用システム



共同・共助による保全管理

森林保全活動

治山治水の一環として、藩政時代から引き継がれた森林を、生産森林組合等によって保全管理されています。



水資源の有効活用

山麓地では、約900か所のため池が現在も利用され、地域によって共同で修繕・管理されています。



コミュニティ・文化の継承

「屋敷」を中心としたコミュニティや神社祭りに関わる伝統的な民族芸能が現代まで継承されています。



日本農業遺産認定による効果

認知度向上・地域活性化

地域住民の理解向上の取組

- ◆ シンポジウムの開催
- ◆ 各地区のイベントでのPR
農業遺産への認知度を高めるため、各地区で開催するイベントでパネル展示やクイズ等を実施
- ◆ 日本農業遺産ロゴマークや、PRパンフレットの作成、広報、HP、SNSを活用し情報を発信



▲シンポジウムの開催



▲オーナーによる棚田の田植え

地域活性化に向けた取組

- ◆ 棚田及び景観の維持に向け、若者有志がオーナー制を導入し、地域内外からの参加者により、棚田での稲作の継承、交流人口の拡大
- ◆ 地域特産品の販売促進に向けた、地域の経営者や事業者による販売会の実施
- ◆ 東稲山を中心とする山々への来訪者数の拡大に向けた山道整備や、山ツツジの再生、地域おこし協力隊によるフットパスイベント、自然観察会を通じたウォーキングイベント等の実施



▲フットパスイベント



▲自然観察会の取組

- ◆ シンポジウムやイベント等への参加人数：
- (R3) → **865人** (R6)
- ◆ 棚田田植えイベントへの参加者数：
45人 (R3) → **約50人** (R6)
- ◆ フットパス、ウォーキングイベント等への参加者数：
約50人 (R3) → **約110人** (R6)

次世代への継承

農業遺産の価値の伝承

- ◆ 地元の小中学校や高校、地域団体等を対象とした出前講座を行い、農業遺産の認定内容や歴史、価値等について理解を促進
- ◆ 地域の人たちを講師に、農業遺産関連スポットを巡り、農業遺産の価値を地域内外の人たちと共有する地域勉強会を開催



▲出前講座への出張



▲現地勉強会の開催

- ◆ 出前講座実施学校・団体：
- (R3) → **累計16校・団体** (～R6)
- ◆ 出前講座受講者数：
- (R3) → **累計延べ1,407人** (～R6)

保全活動の推進

子どもたちやボランティアによる森林保全

- ◆ 生母生産森林組合といわて生協が「コープの森づくり活動」の契約を締結し、イロハモミジの森やブナの森づくりを実施
- ◆ 西行法師の歌に詠まれた桜の景観を復活させるため、地元の小学生等の桜の植樹により「西行桜の森」を再生



▲コープの森づくり事業の取組



▲全校児童による桜の植樹

- ◆ 森林経営計画認定面積：821ha (R3) → **664ha** (R6)
- ◆ 集落協定取組面積：802ha (R3) → **796ha** (R6)
- ◆ イロハモミジの植樹：- (H26) → **累計235本** (～R6)
- ◆ ブナの植樹：- (H26) → **累計60本** (～R6)
- ◆ 西行桜の森の植樹：- (H27) → **累計590本** (～R6)
(桜の樹の本数：5,402本)